

景気動向指数

1 福岡県の景気動向指数（2012年8月）

- (1) 先行指数：4か月ぶりに50%を下回った。
- (2) 一致指数：2か月ぶりに50%を上回った。
- (3) 遅行指数：3か月連続で50%を下回った。

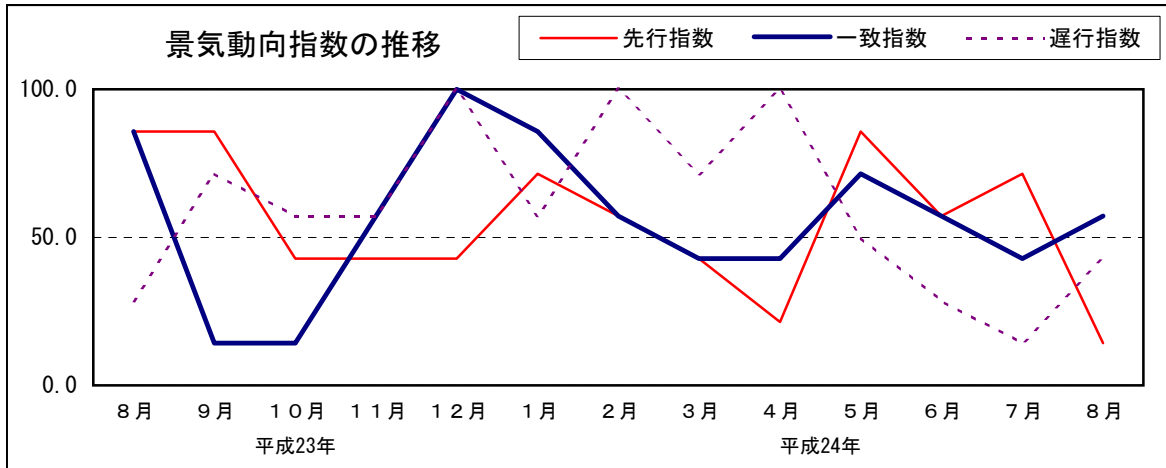
福岡県

		先行指数	一致指数	遅行指数
平成23年 (2011)	8月	85.7	85.7	28.6
	9月	85.7	14.3	71.4
	10月	42.9	14.3	57.1
	11月	42.9	57.1	57.1
	12月	42.9	100.0	100.0
平成24年 (2012)	1月	71.4	85.7	57.1
	2月	57.1	57.1	100.0
	3月	42.9	42.9	71.4
	4月	21.4	42.9	100.0
	5月	85.7	57.1	50.0
	6月	57.1	57.1	28.6
	7月	71.4	42.9	28.6
	8月	14.3	57.1	42.9

全国

		先行指数	一致指数	遅行指数
平成23年 (2011)	8月	72.7	90.9	58.3
	9月	36.4	31.8	66.7
	10月	45.5	54.5	58.3
	11月	54.5	45.5	58.3
	12月	45.5	81.8	33.3
平成24年 (2012)	1月	72.7	63.6	33.3
	2月	90.9	81.8	50.0
	3月	90.9	90.9	66.7
	4月	63.6	81.8	91.7
	5月	27.3	63.6	75.0
	6月	36.4	27.3	50.0
	7月	30.0	20.0	40.0
	8月	20.0	10.0	40.0

資料出所：福岡県調査統計課、内閣府「景気動向指数(DI)」



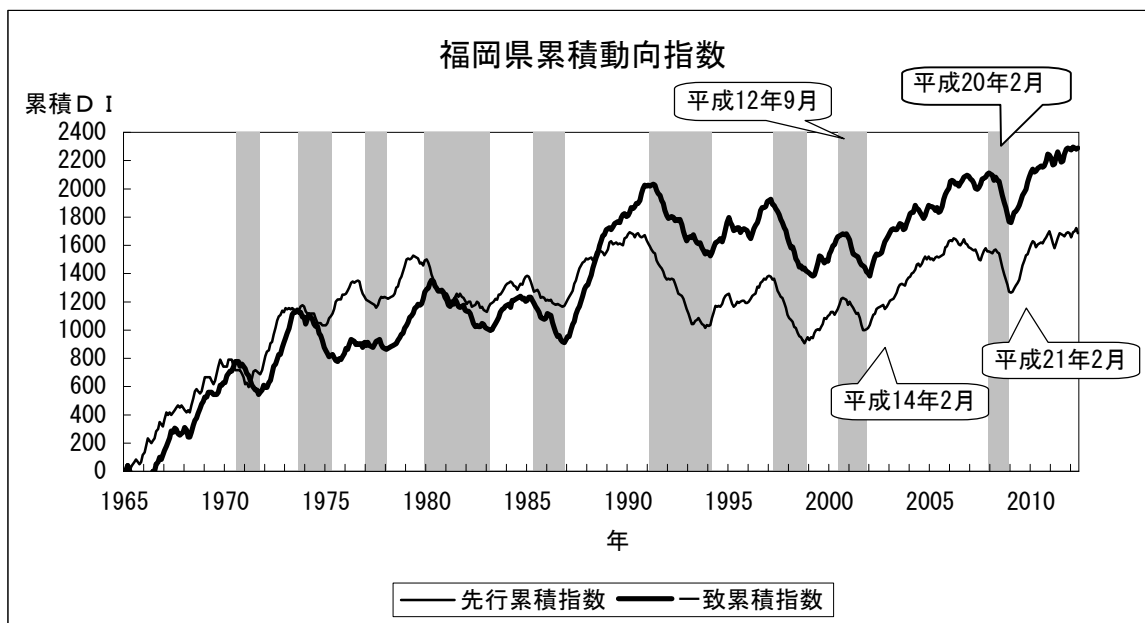
○ 個別系列の変化方向

	プラスの指標（3か月前との比較）	マイナスの指標（3か月前との比較）
先行系列	最終需要財在庫率指数	<ul style="list-style-type: none"> ▼生産財生産指数 新規求人数 ▼新設住宅着工床面積 日経商品指数 ▼乗用車新車登録台数 ▼輸入通関実績
一致系列	<ul style="list-style-type: none"> 鉦工業生産指数<総合> 鉦工業出荷指数<総合> △スーパー販売額 有効求人倍率 	<ul style="list-style-type: none"> 所定外労働時間数<製造業> 電力使用量<大口> 輸出通関実績
遅行系列	<ul style="list-style-type: none"> △常用雇用指数<全産業> △雇用保険受給者実人員 地銀貸出約定平均金利 	<ul style="list-style-type: none"> 鉦工業在庫指数<総合> 消費者物価指数（福岡市） 勤労者世帯消費支出（福岡市） ▼法人事業税調定額

※△は前回のマイナス指標からプラス指標になったことを、▼はプラス指標からマイナス指標になったことを示す。
※変化方向0は便宜上プラスとしている。

景気動向指数

2 福岡県の累積動向指数（1965年9月～2012年8月）



資料出所：福岡県調査統計課

（参考）累積景気動向指数（累積D I）

毎月公表している景気動向指数の月々の値を累積したものが累積景気動向指数（累積D I）です。累積（D I）はある基準年月（1965年4月）を0とし、次式により月々累積して求めています。

$$\text{累積D I（当該月分）} = \text{前月の累積D I} + \text{（当該月のD I} - 50\text{）}$$

累積D Iは、基調的な動きをわかりやすく、視覚的にとらえやすいという利点をもっています。なお、グラフのシャドウ部分は、景気の後退期をあらわしています。

福岡県の景気基準日付（景気の山、景気の谷）

谷	山	谷	拡張期間	後退期間	全循環
	昭和45年10月	昭和46年12月		14か月	
昭和46年12月	昭和48年11月	昭和50年7月	24か月	20か月	44か月
昭和50年7月	昭和52年3月	昭和53年4月	20か月	13か月	33か月
昭和53年4月	昭和55年2月	昭和58年5月	22か月	39か月	61か月
昭和58年5月	昭和60年7月	昭和62年2月	26か月	19か月	45か月
昭和62年2月	平成3年4月	平成6年5月	50か月	37か月	87か月
平成6年5月	平成9年6月	平成11年2月	37か月	20か月	57か月
平成11年2月	平成12年9月	平成14年2月	19か月	17か月	36か月
平成14年2月	平成20年2月※	平成21年2月※	(72か月)	(12か月)	(84か月)

※平成20年2月の景気の山と同21年2月の景気の谷は暫定

（参考）景気基準日付

景気の拡張局面と景気の後退局面を分ける景気の転換点のことであり、景気動向指数の一致指数から作成されるヒストリカルD I（HD I）が50%を超える、もしくは切るときが景気の拡張局面と後退局面を分ける転換点となります。HD Iが50%ラインを上から下に切るときが景気の「山」、下から上に切るときが景気の「谷」とわれています。

※HD I：通常使用している一致指数から不規則変動を除去したもの